

目 次

口 統

戸倉町誌の発刊によせて 戸倉町長 滝沢 弘
監修のことば 日本学士院会員 児玉 幸多

例 言

監修者・執筆者一覧

第一章 村と宿場の明治維新 1

概 観 3

支配の変遷と戸籍区・小区・小学区 3

生活の変化と文明開化 4

神仏分離・天皇巡幸と教育 5

第一節 松代藩・伊那県から長野県へ 6

一 戊辰戦争と民衆の負担 6

二 尾州藩取締所と伊那県中之条局の支配 10

三 松代商法社と伊那県中信商社 14

四 中野県の設置と中之条局の廃止 20

五 松代一揆とその影響 20

六 中野県・松代県から長野県へ 24

第二節 戸籍区・大区小区制と村民生活 27

一 戸籍区から大区小区制へ 27

二 区・学区のもの村政と村合併 30

三 村の人口動態と村民生活 33

四 村の文明開化と太陽暦の採用 36

第三節 産業と村民負担の変化 40

一 農業と諸営業 40

二 農民の負担と地租改正 43

三 徴兵令と西南戦争 47

第四節 宿駅の廃止と交通・通信 40

一 宿駅の変貌と陸運会社 50

二 宿駅の生活と飯盛女の解放 54

三 明治新道の開通と郵便の始まり 58

第五節 神仏分離と学校教育

三 村会の開設と村財政
四 分村と連合戸長役場の成立

一 平田門国学者と神社・寺院	63
二 学校教育の発足と学区・学校役員	69
三 六つの学校と教育	72
四 天皇巡幸と民衆教化	85
第二章 戸長役場と村民	89
概観	91
更級・埴科二郡と八か戸戸長役場	91
自由民権運動と政党・国会開設	91
用水・林野と産業・交通	92
衣食住のようすと病気・犯罪・災害	93
六つの学区小学校から村立三小学校へ	93
若者組・祭りと村の文化	94
第一節 更級郡・埴科郡と村政	95
一 郡政のはじまりと村政	95
二 戸長役場による村政と村民	96

三 村会の開設と村財政
四 分村と連合戸長役場の成立

第一節 自由民権運動と村民のうごき	108
二 県会議員選挙と参政権	112
三 大同団結運動と政社のうごき	114
第三節 農業と商工業	116
一 用水と溜池	116
二 入会山紛争と林野	119
三 農業・養蚕業と松方デフレーションの影響	122
四 製糸業・酒造業と商工業のあらたな動向	129
五 道路の開削と交通の改善	131
第四節 村民の生活と災害	133
一 生活慣習と衣食住の変化	133
二 コレラの流行と衛生対策	136
三 警察分署の設置と犯罪	139
四 千曲川の洪水と防災	141

第五節 教育と文化

一 村への学校移管	146
二 学務委員と村委会・学区会	148
三 村立小学校の設立	151
四 小学校の教員と生徒	157
五 若者組の活動	163
六 寺社制度と祭礼・信仰	165
七 村誌編集と村民の文化	170
第三章 戸倉・五加・更級三か村の村民	175
概 観	177
町村制による村役場・村委会と区	177
国・県・郡の政治と村民生活	177
産業の改良発達と農会・産業組合	178
戸倉温泉の開発と防災・衛生	179
日清・日露戦争と村民生活	180
高等科設置・実業補習学校創立と婦人会・青年会	181

第一節 村役場の発足と三か村の村政

一 町村合併と三か村の成立	182
二 村役場の行政と三役・吏員	185
三 二等級選挙による村委会と村財政	189
四 区会の設置と用水の維持管理	194
五 日露戦争と村政	198
第二節 国会・県会・郡会と村政・村民	202
一 政党活動と国会の開設	202
二 衆議院議員選挙・貴族院議員と政党活動	203
三 県会議員選挙の変化と有権者	206
四 郡会議員・有権者と郡政への要求	207

第三節 農事改良・商工業と信越線・篠ノ井線

一 用水管理と稻作の改良	211
二 養蚕業・蚕種業の発展と産業勵	215
三 農会の結成と農事指導	219
四 産業組合の成立	222
五 銀行の成立と商工業の発達	223

第四章 大正デモクラシーと戸倉事件

次

目
概

戸口流動化の進行	336
学校校舎・役場庁舎・交通網の整備	336
郡政・県政・国政と政党	334
農事改良と農業団体	326
鉄道発達・停車駅設置と大正橋	321
戸倉温泉街の成立と生活近代化	313
米価騰貴対策と小作組合運動	302
尋常小学校六年制実施と戸倉事件	297
実業補習学校と青年会	294
地域史への関心と神社統合	293
第一節 村政の展開と郡制の廃止	292
一 戸口の流動化と村民	291
二 新しい村政の展開	290
三 村会と村財政の拡大	287
四 区の役割と部落有財産	287
五 郡政の展開と郡制・郡役所の廃止	289
六 国政・県政と村民	287
第二節 産業の発達と産業諸団体	287
一 農業用水の確保と農事改良の展開	287

二 養蚕・果樹・畜産	341
三 農会と産業組合の活動	343
四 商工業の拡大と諸団体	347
第三節 戸倉停車場の設置と交通・通信	350
一 戸倉停車場の設置	350
二 道路の整備と大正橋	355
三 交通機関の発達と乗合自動車	360
四 郵便局と電話の普及	362
第四節 生活の近代化と温泉街の変化	367
一 人口動態と国勢調査	367
二 電灯の普及	370
三 温泉の発達と旅館・芸妓	373
四 職業紹介所と方面委員	377
五 消防活動と千曲川堤防の築堤	385
六 スペイン風邪の流行と伝染病	387
第五節 米騒動・小作問題と社会運動	392
一 第一次世界大戦・米騒動の影響	387
二 小作組合の設立と農民	392
三 警察行政の展開	395
四 帝国在郷軍人会と第一次世界大戦・シベリア出兵	397
第六節 戸倉事件と大衆文化	401
一 義務教育年限の延長と小学校	401
二 戸倉小学校と戸倉事件	408
三 農工補習・実業補習学校と中等学校への進学	413
四 青年会・婦人会の活動	418
五 時局史・郡誌の編さんと宗教・文芸	422

概 観	427
大恐慌・経済不況と村民生活	429
戦時体制下の産業・経済	429
交通網の整備と温泉・観光	430
戸倉の町制施行と町村行財政	431
不況打開策と経済更生運動	432
小作組合運動・社会運動の展開と変貌	433

防災・衛生行政の戦時体制化

日中戦争拡大・太平洋戦争と町村

出征兵士の増大と銃後の生活

満州移民の送出と開拓団

経済不況下の小学校と戦時体制下の国民学校

満蒙開拓青少年義勇軍と学童疎開の受け入れ

文化・文化財と宗教・情報の統制

第一節 昭和恐慌・戦時下の産業・交通

441

一 恐慌と村民生活

441

二 恐慌期・戦時下の農業

445

三 地主制と小作農の動向

451

四 商工業と経済統制

454

五 国道の改修と交通網

456

六 温泉と觀光

459

第二節 戸倉町の成立と経済更生運動

463

一 村の政治と戸倉町の成立

463

二 経済不況下の村財政

466

三 租税の滞納と恐慌対策

466

四 経済更生運動の展開

476

第三節 五加の小作争議と社会生活

一 小作組合運動の高まり

二 全国農民組合運動と小作争議

三 社会運動の展開と行詰まり

四 防災・防空演習と警防団

五 村の医療・衛生行政

493

第四節 十五年戦争下の町村民

497

一 戦時下の町村財政

497

二 戦争の拡大と町村民の動員

502

三 常会の活動と銃後の生活

509

四 満州移民と埴科郷・更級郷

515

五 選挙肅正運動から大政翼賛運動へ

522

第五節 経済不況・戦時下の教育

526

一 経済不況下の小学校

526

二 国民学校の発足と決戦下の教育

530

三 青年学校の発足と中等教育への進学

534

四 教員の生活と教育諸団体の動き

540

五 满蒙開拓青少年義勇軍の送出

543

第六節 文化の統制と国家主義の鼓吹	553
一 町村民の娯楽・文化と統制	553
二 天然記念物・文化財の再評価	557
三 敬神思想の鼓吹と宗教統制	562
四 情報の統制と町村民	565
第六章 町村政治の民主化	571
概観	573
敗戦・占領下の町村行財政	573
国政・県政選挙と戸倉町域	575
農地改革と農業復興	575
工業・金融・産業諸団体と交通運輸の拡大	576
戦争の犠牲をいやすうごきと人口動態	577
町村民の生活と温泉・観光	578
六三制教育の発足と常設保育所	579
公民館活動の開始と婦人会・青年会	580

第一節 民主政治への転換

一	敗戦と町村長の公選
二	町村議会議員選挙と町村議会
三	町村財政の民主化
四	国政・県政選挙の実施
	596 591 588 581
第二節 農村の民主化と経済復興	
一	農地改革
二	農業の復興と食糧増産
三	平和産業への転換
四	農業協同組合・商工会の成立
五	金融機関の拡充
六	交通運輸の整備と拡大
	600 606 600 600 600 600
第三節 生活の再建と温泉の復興	
一	戦争の犠牲者と復員・引揚者の増大
二	人口動態と職業
三	戦後インフレと衣食住
四	戸倉温泉と観光
五	災害の増大と防災
	619 619 619 619 619

六 社会福祉と町村民の保健

第四節 民主教育の発足

一 新学制下の小学校と教育委員会制度	644	639
二 新制中学校の発足と理念・施設	648	
三 P T A の結成と活動	653	
四 季節保育所の開設と戸倉常設保育所	657	
第五節 戦後文化の創造と諸団体	660	
一 公民館活動の開始と公民館報の発刊	660	
二 婦人会・青年会と文化活動	660	
三 神社と国家神道の否定	675	
第一節 町村合併と戸倉町	690	
一 戸倉町と更級村・五加村の合併	690	
二 戸倉町行政の展開と町役場庁舎の新築	694	
三 町議会と町財政	699	
四 広域行政・長期計画と県政・国政選挙	703	
第二節 観光と農業・商工業の発展	715	
一 戸倉温泉と白鳥園の開設	715	
二 農業の変貌	720	
三 農業協同組合の合併	726	
四 農業の基盤整備と埴科幹線用水	729	
五 商店街・大型店進出と町商工会	736	
六 工業化の進展と金融機関の拡充	741	
七 戸倉町の産業構造	748	
概観	681	
第七章 新戸倉町の成立と発展	679	
一 町村合併と広域行政	681	
二 観光と農業・商工業の展開	682	
三 交通・通信の発達と公共機関の整備	684	
四 社会施設の拡充と社会問題	685	

第一節 町村合併と戸倉町	688	687
一 戸倉町と更級村・五加村の合併	690	
二 戸倉町行政の展開と町役場庁舎の新築	694	
三 町議会と町財政	699	
四 広域行政・長期計画と県政・国政選挙	703	
第二節 観光と農業・商工業の発展	715	
一 戸倉温泉と白鳥園の開設	715	
二 農業の変貌	720	
三 農業協同組合の合併	726	
四 農業の基盤整備と埴科幹線用水	729	
五 商店街・大型店進出と町商工会	736	
六 工業化の進展と金融機関の拡充	741	
七 戸倉町の産業構造	748	
概観	681	
第七章 新戸倉町の成立と発展	679	
一 町村合併と広域行政	681	
二 観光と農業・商工業の展開	682	
三 交通・通信の発達と公共機関の整備	684	
四 社会施設の拡充と社会問題	685	
第三節 交通・通信の発達と公共機関の整備	751	
一 道路の整備と架橋	751	
二 自動車の普及と特急電車の戸倉駅停車	756	

三 有線放送の開設と電話の普及	762
四 上水道布設と黒彦団地の造成	765
五 郵便局の変遷と電報電話局の新設	768
六 警察署と法務局	771
第四節 社会施設の拡充と社会問題	774
一 公的年金制度と社会福祉	774
二 老人クラブの結成と活動	781
三 保健衛生と環境衛生	783
四 部落解放と同和行政	788
五 交通問題と公害対策	793
六 消防と災害	799
第五節 統合中学校の建設と教育問題	806
一 戸倉上山田中学校の建設	806
二 給食センターの設置	808
三 小学校校舎の全面改築	810
四 中学生の進路と教育施設・教育諸団体	812
五 保育所・幼稚園と児童遊園	817
第六節 社会教育の充実と町民の活動	821

一 総合体育館と町民のスポーツ	821
二 社会教育諸団体と活動	824
三 公民館活動と成人教育	831
四 文化財の保存と郷土史研究	835
五 町民の祭りと寺社	841
戸倉町誌刊行会委員	
資料提供者及び協力者	
あとがき	